

社会科(公民的分野)学習指導案

活動場所	本校舎 2階	3年4組	教室		
生徒数	3年4組	男子	16名	計	31名
		女子	15名		
指導者	教諭	二川	明信		

1 単元名 「市場経済と金融」

2 単元について

現代の社会は無数の商品が大量に消費される消費社会であり、消費者は自分の意志と判断によって商品を購入するが、時として、企業の宣伝や広告に影響を受けて商品を購入する場合もある。資本主義経済のほとんどの企業が利潤を獲得する一方で、競争社会の中で商品の価格や品質を見直し、消費者のニーズに応えられるような商品を提供し、人々の暮らしを向上させるための社会的責任を負うことまで求められてきている。

本単元では、身近な消費生活を中心に経済活動の意義を理解させるとともに、価格の働きに着目させて市場経済の基本的な考え方について理解させたい。また、現代の生産の仕組みのあらましや金融の働きについて理解させるとともに、社会における企業の役割と社会的責任について考えさせていく。その際、社会生活における職業の意義と役割及び雇用と労働条件の改善について、勤労の権利と義務、労働組合の意義及び労働基準法などの学習内容と関連づけて考えさせていきたい。

生徒たちは、小学校で、「人びとのしごととわたしたちの暮らし」の単元で、働く人々の仕事と私たちの暮らしがどうつながっているのか、スーパーマーケットで働く人々に着目しながら、消費者の立場に立った営業や商品の流通・リサイクルについて学び、また農業や工場の仕事について、農作物や製品ができるまでを広く学ぶようになっている。これは、地域の産業や消費生活の様子、人々の健康な生活や安全を守るための諸活動について理解できるようにし、地域社会の一員として自覚をもたせるようにすることを目標としている。高校では、市場の詳しい分類や企業の結合の種類・寡占と管理価格・市場機構の限界・物価についての動向や消費者物価や卸売り物価を物価指数で表すなど日本銀行と金融政策について学習する。中学校の指導では、経済学習が生徒の身近な現実から経済をとらえるなど、ミクロの視点から構成されていることを踏まえ、高校では、それらの学習内容を深めてゆくとともに、内容の取り扱いに「マクロ経済の観点を中心に扱う」とあるように、国民経済全体の視野から経済をとらえる視点を重視している。

また、価格の決定の仕方について、生徒たちは、価値のあるものは価格が高いということはある程度、理解している。一方、需要と供給のバランスの中で価格が決定していることはあまり理解しておらず、生産者が利益を得るために価格があるととらえている。また、例えば、石油の価格がなぜ高騰しているかという理由について、具体的に答えられない生徒が大半で、価格の決定については十分に答えられない現状である。また、企業や金融機関が社会に与える影響について消費者の立場から理解できていない。

そこで指導にあたっては、特に公民分野での活用する力の育成については、抽象概念の学習である公民的分野において、知識の獲得は現実社会との関連性において学ばせていきたい。こうしたことから、できるだけ身近な例を取り上げ、それぞれの立場に立った考え方ができるよう配慮し、発達の段階に応じた資料を選定し、提示することに心掛けながら、授業を進めていきたい。そのためには、資料課題に対し、発達の段階に応じたリードカードを活用しながら、それぞれの立場で自ら予想し、話し合いを通して、検討し合える場を設定していくことで、資料を読み取り、社会的事象について理解し、その分析した結果をまとめる力を育てていくことができると考える。

以上の取り組みを実践することで、思考力・判断力・表現力を身に付けることができ、それらの力を育成していくことで、活用する力がはぐくまれることになり、本校社会科の主題である、「学びを生かす力をはぐくむ社会科学学習指導」につながっていくものと考えた。

3 単元の学習目標

- (1) 価格や金融に関する作業的な学習や職業と仕事について考えさせることで、価格や金融の働き・職業の意義、雇用問題などを自らの問題としてとらえ、意欲的に学習できる。(関心・意欲・態度)

- (2) 市場経済における価格の決め方や働き，市場の動きにゆだねられない問題や職業の意義と役割，雇用と労働条件の改善について，多面的・多角的に考え，公正に判断することができる。(思考・判断)
- (3) 市場経済のしくみ，金融の働き，職業の意義と雇用問題などに関する資料を収集し，適切に選択・活用でき，考えた結果をわかりやすくまとめたり，発言や発表を行うことができる。(技能・表現)
- (4) 身近な事例を通して市場経済の基本的な考え方や価格の決め方，役割，金融の働き，職業の意義や企業の役割と社会的責任を理解し，その知識を身に付けることができる。(知識・理解)

4 単元の学習計画及び評価規準

時間	学習の目標	評価規準
1 本時	1. 市場経済のしくみ いろいろな資料をもとに，商品の価格の決め方を考え，経済についての興味・関心を深める。 身近な例を通して，価格の変動は，需要量と供給量に影響し，市場経済に左右されることを理解する。 市場価格や均衡価格の決定について理解し，生産者側や消費者側の双方の立場から価格と商品の変化について理解する。	身近で具体的な事例を通して，商品の価格の決め方を考えることで，経済についての興味・関心を高めている。(関心・意欲・態度) 身近で具体的な事例を考えることで，商品の価格の決定には，需要と供給の関係があることを理解し，その知識を身に付けている。(知識・理解)
2	2. 市場と価格 具体例を使いながら，価格が信号機(シグナル)の役割をしていることを理解する。 独占価格の影響や公共料金が設けられている理由を考える。	独占価格の影響や公共料金が設けられている理由を多面的・多角的に考察している。(思考・判断) 価格には人的・物的資源を効率よく配分するシグナルの役割があることを理解し，その知識を身に付けている。(知識・理解)
3	3. 金融のはたらき 金融のはたらきと役割を，金融機関やカードの利用を通して理解する。 日本銀行の役割と公定歩合について理解する。 銀行についての聞き取り調査を行い，学習に対する興味・関心を持つ。	金融機関やカードの利用といった身近な事例を通して，金融の働きと役割について興味・関心を高めている。(関心・意欲・態度) 日本銀行は公定歩合を上げ下げすることで景気の調整を行うことを理解し，その知識を身に付けている。(知識・理解) 金融機関が家庭生活や企業活動の中で仲立ちをしていることを理解し，その知識を身に付けている。(知識・理解)
4	4. 働く人たちの生活向上 労働条件を改善するために労働組合やさまざまな法律があることについて理解する。 日本人の企業経営や職業観に対する考え方が変化してきたことを資料から読み取るとともに，職業や仕事に対する関心を持つ。	資料の読み取りや意見交換を通して，職業や仕事に対する関心を持ったり，働く意味を考えたりして，自己の生き方や将来の進路を考えようとしている。(関心・意欲・態度) 労働における諸課題を，消費者，生産者，労働者などさまざまな立場から公正に判断している。(思考・判断)

5 本時の実際 (1 / 4)

(1) 題材名

「市場経済のしくみ」

(2) 学習目標

- ア 資料をもとに商品の価格の決め方を考え，商品の価格の決定には，需要量と供給量との関係があることを理解する。(知識・理解)
- イ 市場経済について身近な例を通して学ぶことで，経済に関する学習への興味・関心を深める。(関心・意欲・態度)

(3) 授業設計の視点

ア 資料を分析する力を育成する工夫

(研究との関連 資料を読み取り，理解したことをまとめる学習活動の展開：リードカードの活用)

資料を読み取り，理解したことをまとめる学習活動の展開では，各学年の生徒の発達の段階に応じて，思考をうまく導いていくために，リードカードの活用を図りたい。その際，支援として資料や内容のどこに着目して書けばいいのか，その視点を明確にし，段階を経てまとめられるようなリードカードの作成に努めたい。ここでは，需要曲線や供給曲線のグラフを理解させるために，まずは，それぞれのグラフの特徴を数値化することでより具体的に理解させ，価格の変動によってどのような変化があるのか，それぞれ2つのグラフを合わせることで，価格や生産量が決定することを導き出させたい。その際，商品の余る状態と不足する状態がどこなのか，その結果，価格がどのように変動するのかを段階的に整理させながら考えさせ，まとめられるようなリードカードの工夫に努めていきたい。

イ 考えをまとめる力を育成する工夫

(研究との関連 社会的事象を多面的・多角的にとらえる工夫)

社会的事象を多面的・多角的にとらえる工夫として、いくつかの視点から、それぞれの立場に立つて考えることが必要であると考え、段階的に自分の考えを整理させることで、自分の考えをまとめることができるようなワークシートの工夫に取り組みたい。ここでは、価格と生産量の視点からそれぞれの生産者側(売り手)と消費者側(買い手)の立場で考えさせ、お互いに意見を出させることで考えをまとめさせたい。また、入荷量と価格の変動のグラフからわかることをとらえさせ、予想させたいと考える。最後に、本時の目標を再度振り返ることで自分の考えを確認させるとともに、商品の価格決定の仕方には、さまざまな要因があることに気づかせることで、市場経済に興味・関心をもたせたい。

(4) 授業の展開

過程	時間	学習活動	指導上の留意点と研究の視点(は評価項目)
導入	5分	<p>1 今の時期のメロンの価格がなぜ高いのか考えてみよう。</p> <p>・時期がずれるから ・天候に左右されるから</p> <p style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 5px;">価格はどのようにして決まるのだろう。</p>	<p>1 今の時期の高価なメロンを提示して、収穫の最盛期の時期を確認し、安い時期と高い時期で価格の変動があるのはなぜか、興味・関心を持たせる。</p>
展開	3分	<p>2 生産者(売り手)とそれを買う消費者(買い手)のそれぞれの立場で考えてみよう。</p> <p>それぞれの望みとは、どんなことだろう。</p> <p>売り手(供給)の立場 ・多く作って、多く売りたい。 ・高値で売りたい、儲けたい。</p> <p>買い手(需要)の立場 ・安くで買いたい。 ・たくさん必要なときに安ければたくさん買いたい。</p>	<p>2 売り手と買い手のそれぞれの立場で考えさせながら、両者が利益を得るための行動であることを理解させる。</p> <p>価格を通して、それぞれの要求を考えることで、それぞれの立場で考えさせることを重視する。</p> <p style="text-align: center;">----- 視点イ -----</p> <p style="text-align: center;">社会的事象を多面的・多角的にとらえる工夫</p>
	7分	<p>それぞれの曲線を考えよう。</p> <p>供給曲線のグラフ ・価格上昇 増やそうとする ・価格下降 つくる量をひかえる</p> <p>需要曲線のグラフ ・価格上昇 買う量をひかえる ・価格下降 多く買おうとする</p>	<p>それぞれの要求の傾向がどうなるか、需要曲線供給曲線のグラフを活用しながら説明する。</p> <p style="text-align: center;">----- 視点ア・イ -----</p> <p>資料を読み取り、理解したことをまとめる学習活動の展開(リードカードの活用)</p> <p>社会的事象を多面的・多角的にとらえる工夫</p> <p>2つのグラフから読み取れる事実を拾い出させ、どういう傾向があるか確認させる。</p> <p>価格の上昇・下降により、供給量や需要量がどう変化するか予想させる。</p>
展開	10分	<p>3 一般的に商品の価格はどのようにして決まるの？</p> <p>2つの曲線の交わりから具体的な数値を出そう。(均衡価格)</p> <p>・300円で150個つくればよい。 ・物余りの状態 価格は下がる。 ・物不足の状態 価格は上がる。</p>	<p>3 一般的に価格がどのように決定しているのか、供給曲線と需要曲線の関係について学ばせる。</p> <p>需要・供給曲線を合わせることで、その商品の価格と量になることに気づかせる。また、2つのグラフから、商品が余っている状態なのか、不足している状態なのか考えさせることで、価格がどう変化するか考えさせる。その中で市場価格と均</p>

展 開	15分	<p>一般的な価格決定について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市場と市場経済 ・需要と供給の関係 <p>4 価格の決定について考えを深めていこう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・なぜキャベツを捨てるのだろうか。 ・台風で落ちたリンゴ多いと、価格がなぜ上がるのだろうか。 ・閉店間際のおそうざいをなぜ値引きするのだろうか。 	<p>均衡価格を理解させる。</p> <p>----- 視点ア -----</p> <p>資料を読み取り，理解したことをまとめる学習活動の展開(リードカードの活用)</p> <p>価格の決まり方を考え，価格の決定には，需要と供給の関係があることを理解する。</p> <p>4 一般的な価格の決定について学び，それをもとに実生活で起こっている現象について考えさせる。需要曲線や供給曲線の変動により，均衡価格が上下することに気づかせる。小学校で学んだ内容を振り返えらせたり，高校で学ぶ内容について触れる。</p> <p>----- 視点イ -----</p> <p>社会的事象を多面的・多角的にとらえる工夫</p> <p>身近で具体的な事例を通して，商品の価格の決まり方を考え，経済についての興味・関心を深めることができる。</p>
	5分	<p>5 本時のまとめを行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一般に価格は需要量と供給量のバランスで決まる。(均衡価格) ・商品が売り買いされる場が市場であり，市場において需要と供給のとの関係で営まれる経済を市場経済という。 	<p>5 これまでの授業を通して，重要語句を確認し，自分の考えをまとめさせ，発表させることで，より理解を深めさせる。</p>
終 末	5分	<p>6 自己評価を行う。</p> <p>7 次時の予告を行う。</p>	<p>6 自己評価カードを使って記入させる。</p> <p>7 生産者と消費者の関係が価格に関わることやすべての価格が市場で決定するわけではないことに触れ次時につなぐ。</p>